

BCAO関西支部 令和3年2月度(第155回)地域勉強会 議事録

日時 2021年2月17日(水) 18:50~20:30

場所 Zoom

司会者 飯田 書記:鷺山

出席者 飯田、伊藤、徳永、別役、寅屋敷、田中、中島、萩原、福島、柳本、中村、松尾、梅田、柳父、鷺山(記)(計15名)

テーマ1:「昨年12月実施 関西支部・勉強会運営に関するアンケート」

説明:BCAO 関西支部支部 飯田 清人(代理説明)

概要:回答で多く寄せられた内容を披露し、今後の勉強会のテーマに取り上げる項目を運営委員会で議論をしていく

- ① 活動の振り返り(5月~12月の勉強会のテーマの感想) 良かったテーマ
 - ・コロナの対応(リアルタイムで企業の取組みが聞けた)
 - ・ITBO とのコラボ、アフターコロナの状況(これまでになかった新しい取組みだった)
 - ・WEB 訓練(コロナ禍でタイムリーな取組み、ノウハウを教えてもらって有益だった)
 - ・福島講師の中小企業の感染症対応(コロナ対応の参考となった)
 - ・名古屋勉強会との合同勉強会、一日前プロジェクト(過去にない取組みで参考になった)
- ② 今後のテーマ設定について
 - ・コラボ企画、WEB 訓練、コロナ企業の対応など
 - ・新しい活動、議論を深めていく勉強会にして欲しい
- ③ 今年度に取り上げて欲しいテーマ
 - ・オンラインを活用した BCP 訓練、昨年度版の発展形
 - ・BCP の意義浸透に関する対応事例(役職の皆さんに BCP の重要性をどのように理解させたらよいか)
 - ・コロナ下での演習のあり方、訓練方法
 - ・RPA を用いた働き方改革の具体事例と事業継続の相乗効果
 - ・在宅勤務でメンタル面の課題が出ていることへの対策についての意見交換
 - ・海外会社の巻き込み方等、海外関連の議題
 - ・パンデミック BCP
 - ・新型コロナウイルス感染症を踏まえた BCP の改善、コロナ対応の優良事例の共有化
 - ・政治リスク
 - ・クラウドをはじめとする IT 利活用研究
- ④ 取り上げて欲しい通年の「統一テーマ」は③と重複するので割愛
- ⑤ BCP の取組みで疑問に思う事、困っていること
 - ・コロナ中心となっているが、自然災害や BCP に関する悩み等が寄せられている
 - ・役職員に対する意識向上
 - ・BIA って本当に重要?

・事業継続強化計画の話はどうなっているの？

⑥ 以上を整理すると、本年度は以下のような方向性で検討したい

- ・(新型コロナ)情報交換を継続、コロナ禍の複合災害、コロナの悩みの共有
- ・(自然災害) 最重要テーマ、南海トラフ、首都直下地震、風水害、気象変動
- ・(情報システム)関心の高いテーマ、データ保全、クラウド活用、ランサムウェア等
- ・(その他)お悩み相談会は指導というスタンスではなく、共有・議論するというスタンスで実施

以上

テーマ2:「災害から命を守るための備え、～いつ、どこへ逃げる～」

講師:西濱防災ネット技術事務所 代表 西濱 靖雄 氏

自己紹介:1962年 三菱電機(株)通信製作所に入社

1994年 西菱電機(株)入社

2003年 技術士(電気電子部門)情報通信、(公)日本技術士会入会

2007年 BCAO 入会 (BCAO 事業継続管理者)

2008年 西濱防災ネット技術事務所設立

概要:

① 日本の防災対策の変遷を紹介

・昭和20年から今日までの死者・行方不明者の推移

災害ごとに犠牲者増大、伊勢湾台風を契機にS36年に「災害対策基本法」ができた過去はハード対策中心であり、死者は少なくなったが、近年は増加となりハード対策を補うソフト対策が進んでいる。

② 災害対策基本法の紹介

・国土並びに国民の生命、身体および財産を災害から保護することを目的としている
災害のたびに改定されてきている

・理念には公助、自助、共助が記載されている、H25年には地域における多様な自発的行う防災活動、「地区防災計画制度」が追加された。

・地区防災計画は、住民主体の計画であるため現場で作るいわゆるボトムアップである

③ 「自然災害は、人間社会の脆弱性で起きている」本日のメインテーマ

・災害は、自然側の誘因(大雨、強風、地震、火山)と素因(地形、地盤、山、川、海)があつて災害現象は発生しているが、これだけでは災害とは言わない

・そこに人間がいて、被害が出て初めて災害という

・社会が複雑になってきて、被害がドンドン大きくなってきている

・今日の防災対策はハードからソフトにシフトしているが、なくすことはできず、減災という方向に進んでいる

・阪神淡路大震災の折は、自助:公助:共助の比率は7:1:2と言われていたが、今日1:1:無限大と言われている

・災害(ディザスター)の大小は人間社会の脆弱性によって決まるため、脆弱性を小さくする

ことが重要

・福祉の面から、要援護者は高齢化の中で増加。阪神淡路の際の高齢化比率は14%であったが、今は28%と倍加、いま阪神淡路が発生すれば死傷者は6千ではなく9000~1万を超えるレベルになりかねない状況だ

・気象現象をなくすことはできないため、如何にハザードを小さくする取り組みをするかが重要だ

・災害 Risk は次の式となる、 $Risk=(H,E,V,Re)$

(H)ハザード、(E)ハザードの暴露、(V)脆弱性、(Re)回復力

・災害から命を守るためには

①災害のリスクを知る⇒正しく恐れる、ハザードを正しく理解する、災害を想像する

②被害を少なくする方法を知る⇒地域を歩いて、逃げる方法を知る、適切な備え
避難タイミングを知る

③自ら行動を起こす⇒地域住民とのコミュニケーションをとる

④ 日本技術士会の紹介

・技術士とは、科学技術に関する高等の専門的応用能力を必要とする事項についての計画、研究、分析、試験、評価またはこれらに関する指導の業務を行うもので、国家から認定を受けた高級技術者を言う

・登録者は94000人、55%が建設部門、78.6%が一般企業等、12.9%が官公庁・法人等、0.5%が教育機関勤務、8.6%が自営業という内訳である

・H16年近畿災害やH30年の西日本豪雨などで現地入りし相談会、提言、子供たちへの勉強会等行っている

・防災シンポジウムの開催など多岐にわたる活動を行っている

⑤ 最後に、起きてもおかしくない地震について

・南海トラフの全域で起きるか半分(半割れ)か、何れにしても1946年南海地震からみて、平均発生間隔は88.2年、今後30年でみると70~80%、10年でみると30%、50年でみると90%くらいで、あとになればなるほどエネルギーは大きくなる。

発生確立の大小で絶対大丈夫という事はない、例えば、阪神淡路は当時は30年で0.02%~8%であった、東北地方太平洋沖地震では10~20%、九州布田川断層帯はほぼ0%~0.9%確率が低いと言って絶対大丈夫と言う事はない

以上